

第69回国立大学法人奈良女子大学経営協議会議事要録

日時 令和2年6月26日(金) 9時30分～11時32分
場所 遠隔会議：第一会議室(事務局管理棟3階)、研究室等
出席者 今岡学長、藤原理事、小路田理事、小川理事、野村理事、平井理事
井岡委員、河野委員、清水委員、牧田委員、松本委員、村岡委員、山川委員
列席者 酒居監事、福田監事、河本事務局長、岩阪事務局次長／総務・企画課長、
桑原国際課長、川村研究協力課長、林財務課長、清水施設企画課長、
鱸学務課長、西村学生生活課長、早川入試課長、横井学術情報課長
荒堀総務・企画課課長補佐、米谷総務・企画課課長補佐、
竹内総務・企画課総務係長
議長 今岡学長

議事に先立ち、

- (1) 学長から、今年度対面による第1回目の開催にあたっての挨拶の後、新任の理事・委員、再任された委員、事務局長及び新任課長の紹介。
- (2) 第67回経営協議会(令和2年3月26日書面開催)及び第68回経営協議会(令和2年4月2日書面開催)記録を確認。

審議事項

1. 令和元年度決算について

藤原理事から、資料1-1から資料1-5により、令和元年度決算(案)について説明があった。審議の結果、原案のとおり承認し、役員会へ付議することとした。

2. 平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間(平成28～31事業年度)に係る業務の実績に関する報告書について

小路田理事から、資料2による説明の後、6月末の提出期日に向けての作業において、今後軽微な文言修正があれば学長に一任することとして承認願いたいとの発言があり、審議の結果、これを承認し、役員会へ付議することとした。

3. 役員の令和2年6月期に支給する勤勉手当の勤務成績評価について

学長から、令和2年6月期に支給する役員の勤勉手当の勤務成績評価について、資料3及び平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果等により説明があった。審議の結果、標準である「勤務成績が良好な役員95/100」の区分を適用することとした。

4. その他

特になし

報告事項

1. 奈良教育大学との連携協議について

学長から、資料4-1から4-3により、奈良教育大学との連携協議における合意事項、新法人の概要、奈良カレッジズ総合イノベーションセンターの設置について報告があった。

2. 工学部の設置について

学長から、工学部の設置について、3月に文部科学省に対して意見伺いの書類を提出したこと、生活環境学部の学科の変更について、4月に文部科学省に対して事前伺いの書類を提出したことの報告があった。また、工学部については今年度、生活環境学部の学科については来年度の設置審査に諮られる旨の報告があった。

3. 「国立大学改革方針」を踏まえた徹底対話について

学長から、資料5により、3月17日に文部科学省で実施された徹底対話について報告があった。

4. 新型コロナウイルス感染症への対応について

学長から、資料6-1から資料6-2により、新型コロナウイルス感染症への本学の対応について報告があった。

5. 令和3年度施設整備費補助金等概算要求事項について

事務局長から、資料7により、文部科学省へ提出したとの報告があった。

6. なでしこ基金について

事務局長から、資料6-1別紙4及び資料8-1から資料8-2により、なでしこ基金の受入状況及び前年度の支出状況について報告があった。

7. 平成30年度監事監査報告における所見への対応状況について

事務局長から、資料9により、報告があった。

8. 国立大学を取り巻く最近の動向について

学長から、資料10-1により、3月30日付けで策定されたガバナンス・コードについて報告があった。

学長から、資料10-2により、6月15日に開催された国立大学協会通常総会について報告があった。

9. 本学の現状等について

学長及び各担当理事等から、次の事項について報告があった。

- (1) 令和2年度入学者選抜状況
- (2) 令和元年度卒業・修了者の進路状況
- (3) 科学研究費補助金採択件数等の推移
- (4) 女性職員比率の現状
- (5) 留学生の状況について
- (6) 国際交流協定による交流実績について
- (7) 学生交流協定による交流実績について
- (8) 学科・専攻の廃止について
- (9) 令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの申請について
- (10) 「遺贈による寄付制度」に関する協定書について
- (11) 新聞報道について

10. その他

学長から、学外委員に対して本学の取組への意見が求められ、学外委員から以下の発言があった。

- ・井岡委員から、数年にわたる取組が成果として現れている。今後も文部科学省と対話しながら未来に向けての女子大学、そして大学のあり方を示す対応をしていただきたい。また、コロナ禍の中で、学生が奈良女子大学で学んで良かったと思えるような取組を行っていただきたいとの意見があった。
- ・河野委員から、アクティブに活動していることが分かった。今後、大学の経営において、重要性が増すAIやロボット、環境といった分野での女性研究者を育成する取組を行っていただきたいとの意見があった。
- ・清水委員から、多様な点にきめ細かに対応していることに感心した。また、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について、自己評価を可能な限り高くアピールしていることを評価するとの意見があった。
- ・牧田委員から、工学部の設置が進んでいること、女性職員の比率が上がっていることを評価するとの意見があった。
- ・松本委員から、新型コロナウイルスが法人統合のスケジュールにも影響していると思われるので、今後更なる努力が必要になるが是非実現してほしい。奈良国立博物館も協力する奈良カレッジズ構想でのリベラルアーツ教育は良い着眼点であり、もっと強く打ち出してよいとの意見があった
- ・山川委員から、同窓会へのなでしこサポート制度のPRをもっと行っていただければ、卒業生としての協力を惜しまない。また、法人の財務状況について、固定費である人件費比率が高く、法人統合による財務面の改善が難しいことを懸念する、奈良教育大はどうなのか、統合した際に国や文部科学省が期待する効果がでるのか、法人統合後の長期的な経費節減が両大学とも難しい構造ではないのか、これらを危惧するとの意見があった。
- ・村岡委員から、今回の新型コロナウイルスで日本全体のIT環境が整備されていないことが表面化され、それに対して奈良女子大学が進めている工学部設置は時代の流れに沿ったものだと思われる。新型コロナウイルスに関連した学生への支援をきめ細かく行っていることを評価する。2004年に法人化した国立大学にとって、ガバナンス・コードを踏まえた具体的な行動が必要となるとの意見があった。

以上